

シティプラザの出張所について

(森) 実はシティプラザの出張所について、大変注目と期待をしています。今後の行政の在り方、窓口業務の在り方を検討する上で、大きな役割を果たすと思っています。駅があり、買い物ができ、文化施設がありということで、市役所に行く目的が変わろうとしています。本庁の補完としての機能から、本来のあるべき姿へと形を変える予感さえします。今後訪れるであろう、行政が担うものとそうでないものが、より明確化されスリム化されていく行政。夢の窓口サービスを合言葉に、夢ある和泉市の一助になることを期待します。なお、今回は、今後の課題などについてや詳細については言及しておりませんが、次の予算審査特別委員会へとつなぎたいとおもいます。(市議会だよりに掲載のため質問のまとめとします)

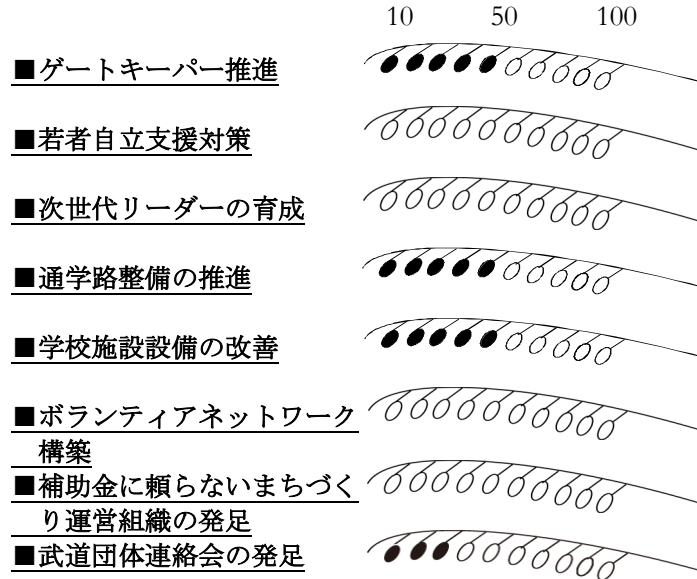


季節の風情

空の色おもいもよらぬ強敵に

会派 五月会 (柏富久蔵・関戸繁樹・森久往)  
 庁舎整備特別委員会副委員長・都市環境委員会委員  
 議会運営委員会委員・議会改革検討会議委員  
 泉北環境整備施設組合議会議員・就学対策審議会臨時委員  
 南大阪振興促進議員連盟議員

森ひさゆき取り組み目標進捗状況(%)



★ 現金の投げ入れ事件 2014.12.5

大きな声をあげて議員席に書類などが投げ入れられた。本会議(一般質問)中のことである。見ると現金が多数散らばっていた。投げ入れた傍聴者はすばやくその場を立ち去った。何があったのかと一時議会在場が中断してしまった。その後、議会事務局により投入者が判明、現金と書類等は返却された。意図は判明していないが、ちょうど2年前に傍聴席で帽子着用の注意を聞かず強制退出させられた人らしい。どこでどう間違ったか未だに解決が見られていないようである。

連絡先 〒594-1117 和泉市鍛冶屋町344-2  
 TEL 0725-55-3799 FAX 0725-55-4288  
 Mail : info@morihisayuki.com  
 稲穂通信 発行責任者 森ひさゆき

森 ひさゆき 検索

和泉を守るゲートキーパー宣言  
 和泉市議会議員 2015.2.20発行  
**森ひさゆき** 稲穂通信 第7号



ゲートキーパー  
 講習受講者バッジ



人間力の政治

政治も社会も、携わる者の人格や考え方によって結果が変わってくる。質が問われるようになる。

52.66%、昨年の突然の衆議院解散後の小選挙区で戦後最低の投票率であった。選挙によって選ばれた人に委ねられるということは当然であるが、有権者の意思がどれだけ反映されているかは疑う余地は大きい。

委ねられた議員に信憑性はあるか。政治力もさることながら人間力はどうか。現在の投票率だと各政党および支持組織の投票数が結果に大きく影響する。いわゆる既得権益を含んだ意向が大きい。

冒頭にも記述したが、選ばれた者の人格や考え方が重要になってくる。投票に行かないのであればせめて委ねる人くらいは人間力で決めてほしい。悲しいことにその人間力で決めてほしい人たちが投票に行かないのである。

## 財政のお話

### 「和泉躍進プラン」(案)策定について —「躍進のまちづくり」とその実現 を支える「質の高い行財政運営」—

現在、和泉市では、社会情勢の変化に伴う教育や出産・子育て、医療・福祉分野における課題や中小企業や農林業などの地元産業の活性化、さらに市民が安全・安心に暮らせる住環境の整備、また、超高齢化による医療・福祉サービスへのニーズの高まりや生産年齢人口の減少に対応する取り組みなど、将来的にも持続的に発展可能な「躍進のまちづくり」に取り組もうとしています。

このようななか、大型のショッピングモールの開店などで法人市民税などの市税の増収も見込める状況にありますが、市立病院の建替えや小中一貫校の建設、庁舎の整備問題、(仮称)和泉市総合スポーツセンターの整備、こども医療費助成の拡充など課題は山積しており、このままいくと平成31年度には基金がマイナスに転じてしまいます。そこで、「質の高い行財政運営」の財政健全化に取り組み、将来を見据えた足腰の強い安定した財政基盤の確立を目指しています。

### 現在の財政状況

平成26年度当初予算(一般会計)  
総額 約618億円 うち、市税収入  
約222億円  
歳入に占める割合 36%  
基金残高:約63億円(H25年度決算)  
○本市には大企業が少なく、安定した法人税収が見込めないことから税財源が脆弱で、地方交付税をはじめとした依存財源に頼った財政構造。  
○市税や使用料手数料、基金繰入金などの自主財源の占める割合が歳入の50%未満、地方交付税や国・府支出金、市債などの依存財源が50%を超えるなど、今後も厳しい財政状況が続く見込みです。

### 今後の財政健全化の取組効果(目標)

計画期間(H27~31)中に約40億円の効果額(期間終了後5年間(H32~36)で約38億円の効果額、あわせて10年間で78億円の効果額)  
基金残高については、年度末現在高約30億円を確保  
※財政調整機能を果たす基金残高については、不測の事態への備えとして、一定の残高確保(本市の一般会計の財政規模の5%程度の約30億円)は必要不可欠であると考えています。

### 財政配分について(私見)

あらゆる政策の分析で低い数値の政策の強化。加えて特化した政策の検討。その中で最も人口が定着するような政策の特化が必要だと考えます。思い切った予算配分を望みます。

事例に以前のニュータウン政策から高齢化による人口減少を止める対策は功を奏していない。現在の和泉市のように少しは対応余力のある間に対策を講じ実行していかなければならないと考えます。

国レベルではありますが、フランスでは世帯総収入の世帯人数割による所得税算出や他市事例では二世帯家族の市民税減税策などの施策がとられ人口増とその可能性が含まれています。どのような時代背景であっても、今取り組まなければならないことの予算と、次世代に向けての取り組み予算が同時に執行されなければならないと考えます。

住みよいまち和泉市がどのように「将来的にも持続的に発展可能な躍進のまちづくり」ができるか、人口増の今こそより以上に本腰を入れるチャンスが来ているようにおもわれます。